

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）  
分担研究報告書

副腎クリーゼに関する研究

研究分担者 大月道夫 東京女子医科大学 医学部・教授  
研究分担者 曾根正勝 聖マリアンナ医科大学 医学部・教授  
研究分担者 高橋克敏 公立昭和病院 診療部門・代謝内科・担当部長  
研究分担者 前田恵理 秋田大学 医学部・准教授

研究要旨

本邦成人における副腎クリーゼの実態を明らかにするため、2022年2-3月に本研究班班員を対象とする調査を行った。現在結果の解析中である。

A. 研究目的

副腎クリーゼは副腎不全の予後規定因子である。本邦の小児および成人における副腎クリーゼの実態を明らかにすることを目的とする。

B. 研究方法

本邦の小児および成人における副腎クリーゼの実態を明らかにするための調査票を作成し、2022年2-3月に本研究班班員への調査を行った。その調査結果を詳細に検討・解析中である。

（倫理面への配慮）

慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認（20170131）のもとに行っている。

C. 研究結果

2017年1月1日から2021年12月31日に、班員の施設内に副腎クリーゼを発症した患者がいること、副腎クリーゼ発症時にヒドロコルチゾンコハク酸エステルナトリウム製剤が使用されていることが明らかと

なった。現在さらに副腎クリーゼを発症した患者の背景・症状など、副腎クリーゼに対してヒドロコルチゾンコハク酸エステルナトリウム製剤を用いた患者の背景・症状など、副腎クリーゼに対してヒドロコルチゾンコハク酸エステルナトリウム製剤を用いなかった患者の背景・症状など、を検討・解析中である。

D. 考察

19施設より調査に対する回答を得て、現在さらに詳細を解析中である。本調査の特徴は、副腎クリーゼ時のグルココルチコイド自己注射の使用状況の項目があること、また小児、大人を分けてデータを収集していること、の2点である。副腎クリーゼ対策に対してより具体的な提案ができる可能性がある。

E. 結論

本邦小児、成人における副腎クリーゼの実態を明らかにするため検討・解析を継続

中である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし